シン・てんやわんや

浦野昂大、大野さくら、小野寺陸人、末松寛喜、長野初海、山室彬紗

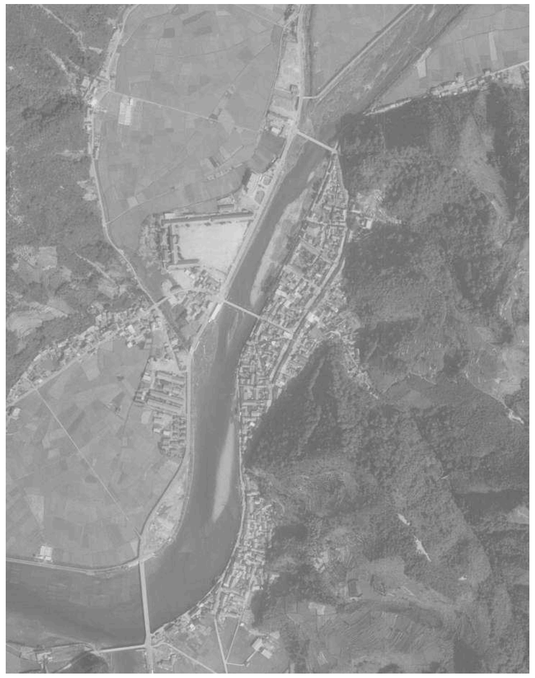
01 “てんやわんや”の時代

01 “てんやわんや”の時代

地勢と起源

岩松川と天が森に抱かれた集落

岩松は、宇和島市南部・岩松川が北灘湾へと流れ込む河口の左岸に位置する。周囲をリアス海岸と急峻な山林に囲まれ、川と海に挟まれた地形は、自然の交通・物流・防災の視点からも独特な条件を備える。14世紀中頃には農村集落が成立しており、室町後期には天が森城の麓に集落が形成された。



▲1966年の空中写真。
東岸を中心に町が形成されていることがわかる。

02 川とともに歩んだまち

川湊としての発展

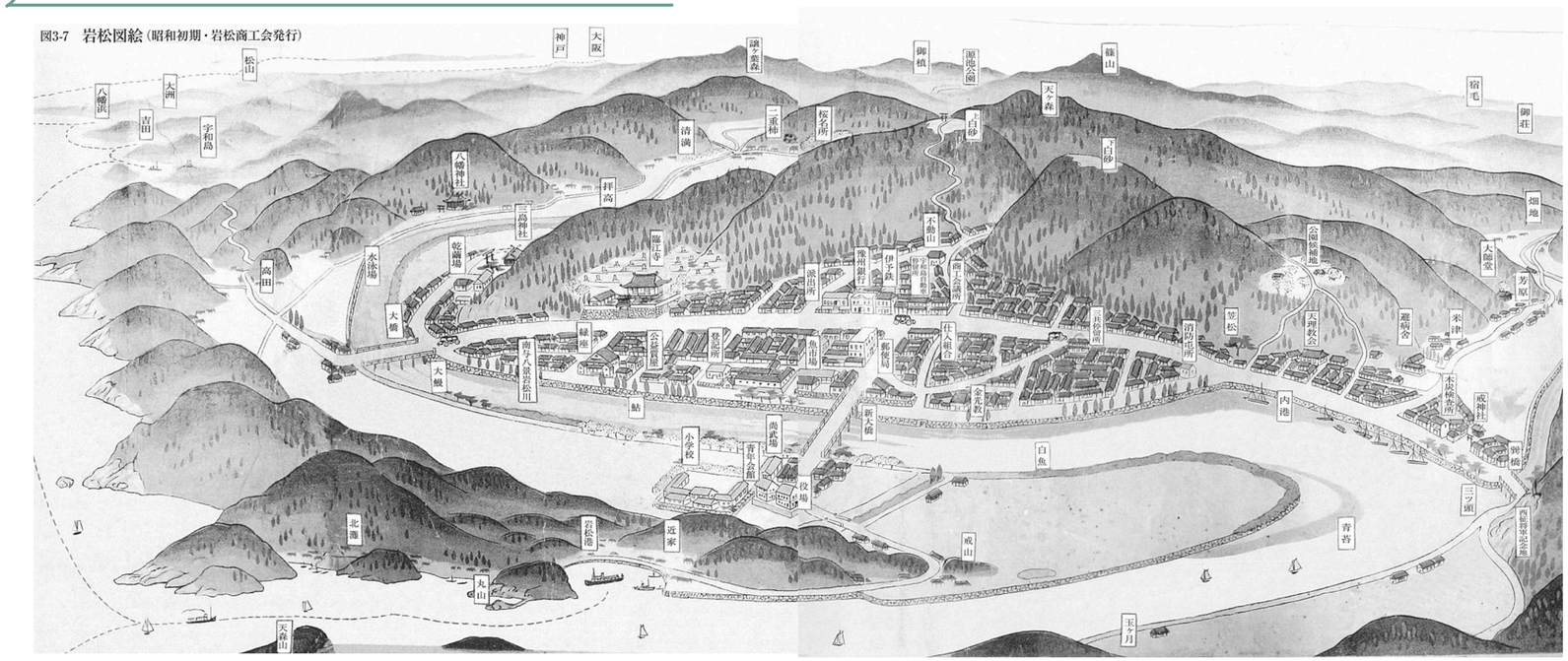


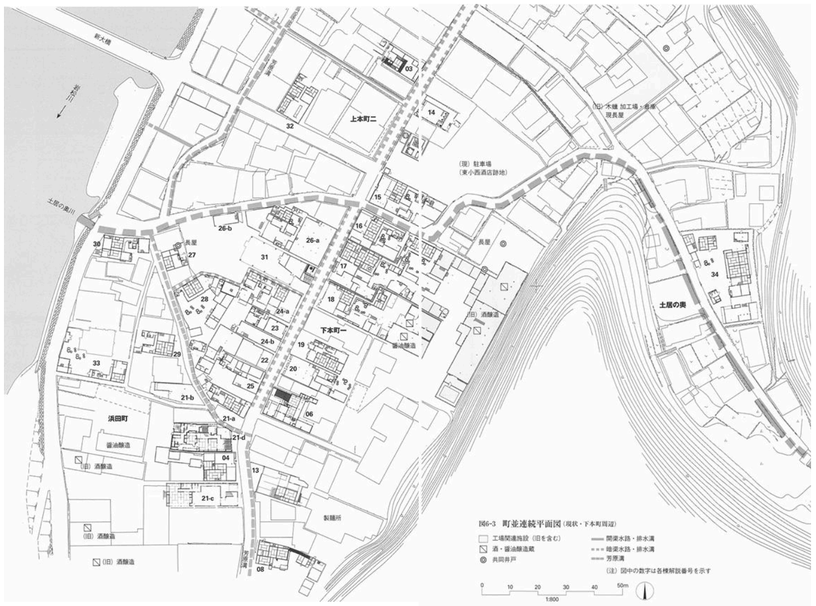
図3-7　岩松図絵（昭和初期・岩松商工会発行）

川から開かれたまち

岩松川は古くから舟運が可能な“川湊”として機能し、山間部や周辺の農村と宇和海とをつなぐ物資集積地となった。1684年、小西家がこの地で酒造業を始め、以降、製蝋・酒造・新田開発・塩田開発などの商業が発展し、町場へと変容。江戸後期から昭和初期にかけて、多くの町家・蔵・寺社・農家住宅が密集して形成される。

02 川とともに歩んだまち

水路とまち



まちの形をつくる

岩松には、上流からの水を引いた農業用水・生活水路が町の裏側を縫うように走っていた。
代表的なのが芳原溝（ほわらみぞ）で、現在は暗渠化されているが、かつては生活の場でもあった。
この水路網は道として人の流れを生み、路地や石垣・小空間などの都市構造に影響を与えた。

くらしの風景をつくる

水は岩松の暮らしそのものに寄り添っていた。
子どもたちが遊ぶ場所、井戸水での洗濯、災害時の避難経路、舟での移動——そうした水辺の情景は、小説『てんやわんや』でも生き生きと描かれている。
水は、生活・景観・記憶を編み上げる糸であり、現在においても再びまちをつなぐ手がかりとなり得る。

重伝建制度のレビュー

“もの”の保存を中心とした制度

・1975年、高度経済成長期のなかで開発圧力から伝統的建造物群を保護するために発足
・建物外観の同質性、連続性といった外から見る眺めを重視

重伝建・輪島市門前町黒島地区の事例
“もの”は残されるが人は少ない

・解体は行われず“もの”は残っている一方、
　人は各地に避難していて、散り散り

黒島地区の現在▶

観光産業の導入と限界

・重伝建選定に伴い、多くの地区では経済的な基盤として観光産業を導入
・観光産業だけで生活環境を維持することは困難な場合も少なくない
・また、生活環境としての重伝建と観光をいかに両立させるかも課題

現状

“もの”の保存を中心とした重伝建

・まちの活性化に繋がりにくい
・災害に備えるハード対策に制約

＋

岩松地区の課題

・人口減、高齢化

▼▼▼

課題

まちを維持して次の世代に繋いでいく制度としては機能しにくい

▼▼▼

“もの”だけではなく“こと”も守る新しい重伝建の枠組みが必要

04 もの・こと・しかけ

もの

従来の重伝建の制度

- 西村酒造
- あめにわ
- 石垣調整池
- 重伝建

▶▶▶

こと

- 井戸端会議
- 防災
- 花植えボランティア
- 修繕・修景・耐震化
- 子どもの遊び
- 移住

しかけ

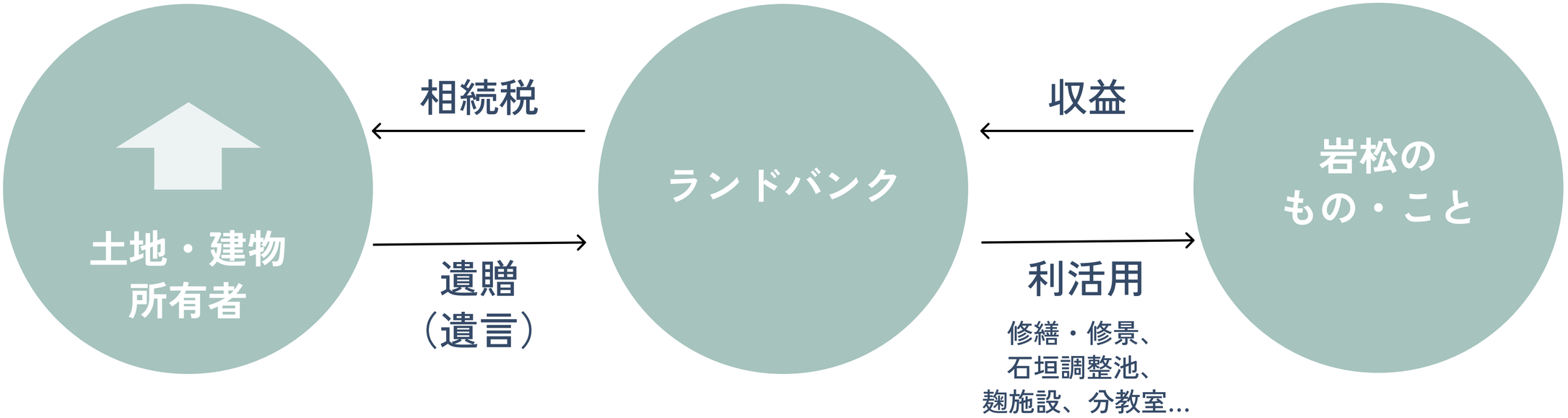
- ランドバンク
- 岩松小との連携
- 麹産業

土地を受け継ぐ

現状

高齢化＋市外流出
名義人が分かっても、管理者分からず、管理されていない土地が多い
→土地が荒廃し、町並みの衰退が加速されてしまう

しかけ① ランドバンク

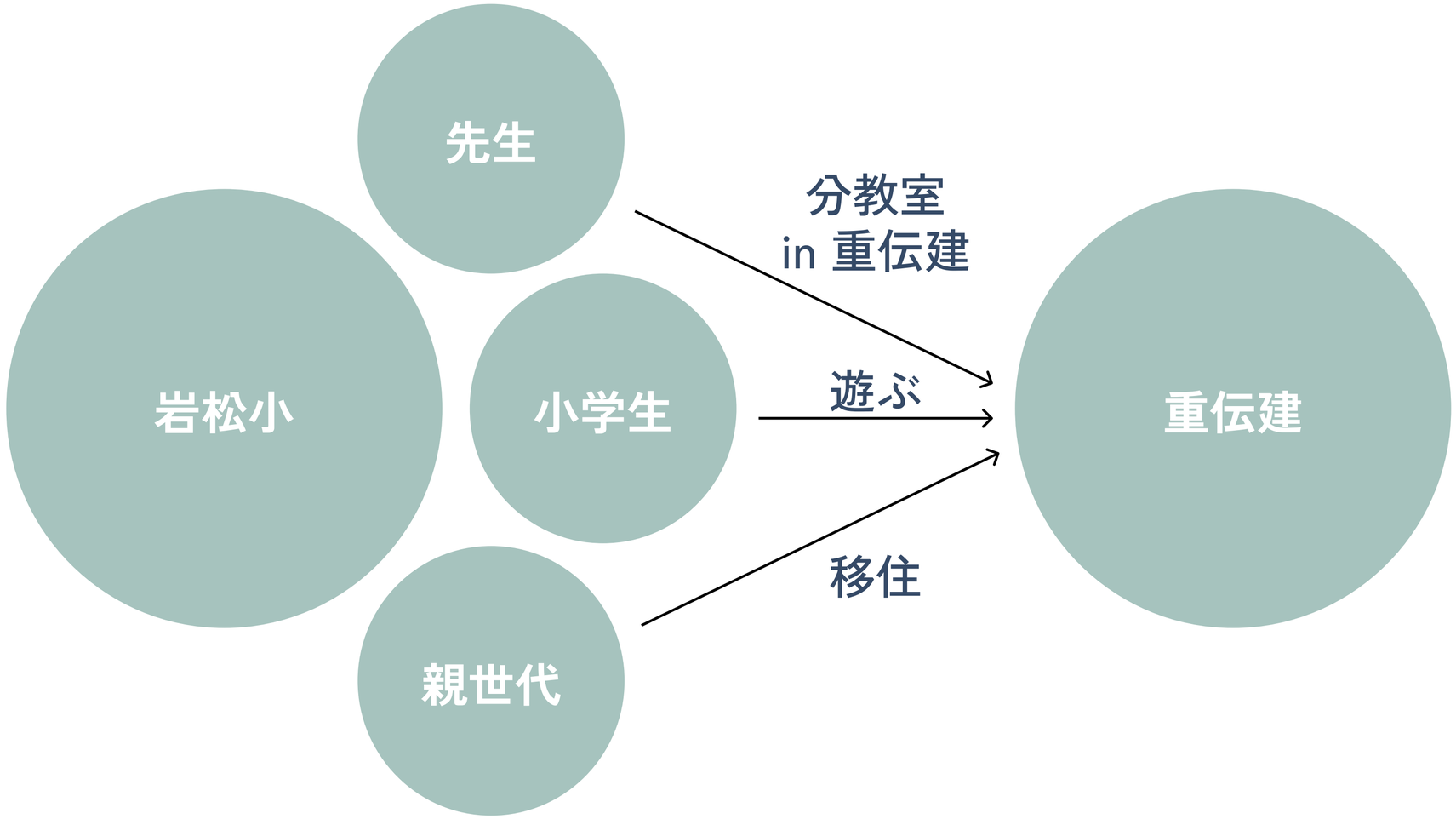


外からひとを呼びこむ

現状

人口減・高齢化
→建物を使う人が少なくなり、町並みの維持が困難に

しかけ② 再来年、津島地区の小学校が岩松小学校へ統合→重伝建との連携

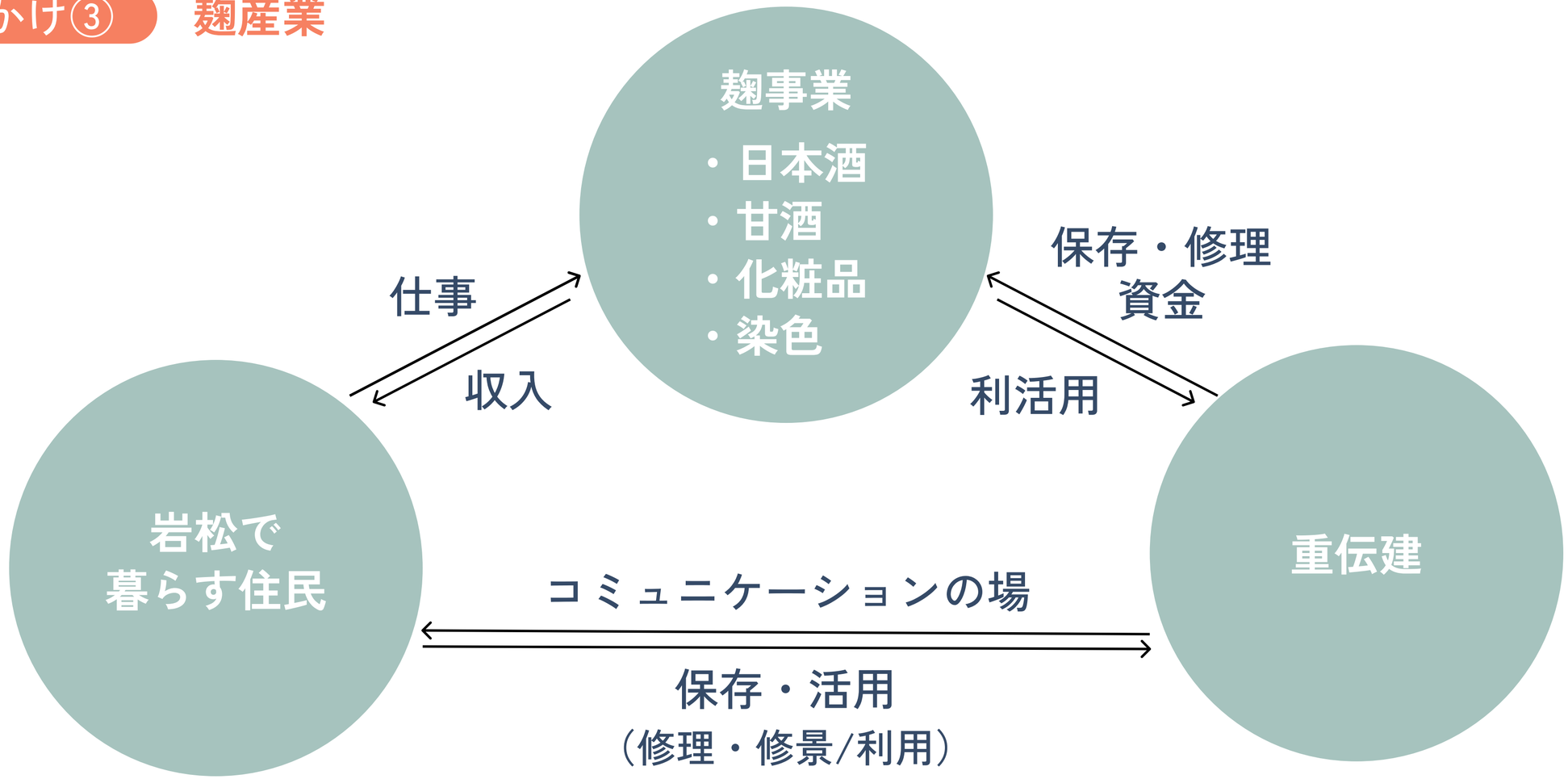


特産を持続可能なスキームに育てる

現状

岩松地区内に仕事があまりない
→若年層の流出、地域外からの誘致が困難、重伝建維持管理が困難

しかけ③ 麹産業



雨庭・石垣調整池

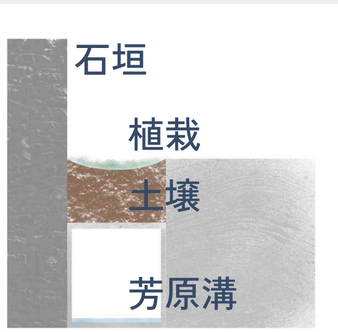
もの

岩松の町並を構成する共有物（環境物件）に注目

芳原溝

↓

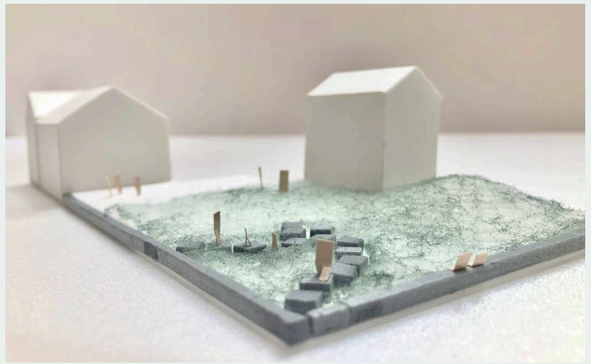
雨庭



石垣

↓

石垣調整池



こと

ひと

- 子どもの遊び場
- 修理/修景
- 花植え

修理/修景

- 芳原溝と石垣という環境物件の修理と新たな活用

防災

- 避難所へ続く雨庭
- 豪雨時の貯水機能
- 消防水利としての利用

しかけ　ランドバンク　岩松小との連携　麹産業

西村酒造

もの

こと

ひと

・井戸端会議
・地域の情報交換の場

しごと

・麹製品販売
・岩松守ろう会の拠点

修理/修景

・外観の意匠はそのままに、中を銭湯として転換する

防災

・土居ノ奥への避難拠点
・断水時の水拠点

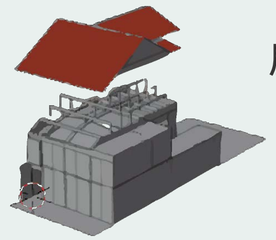
しかけ　ランドバンク　岩松小との連携　麹産業

06

もの・こと・しかけの実践

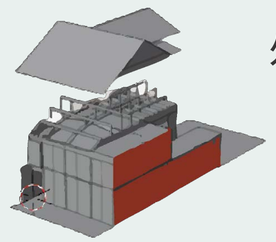
個別建物

もの

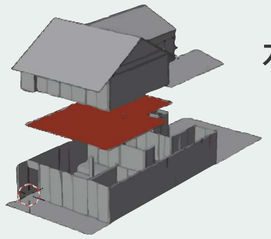


屋根改修
・修景
・台風対策

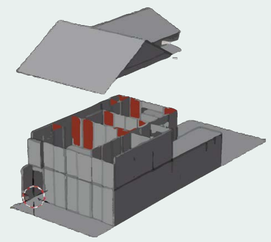
小屋組改修
・台風対策



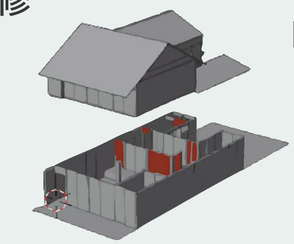
外壁改修
・修景
・耐震補強



水平構面改修
・耐震補強
・設備改修



内壁改修
・耐震補強
・間取り再考
・設備改修



内壁改修
・耐震補強
・間取り再考
・設備改修

こと

ひと

・伝統構法体験
・修繕/修景WS

しごと

・地元工務店の方による修繕

修理/修景

・未使用建築物の利用
・個別建物の耐震性向上

防災

・耐震補強
・台風対策

しかけ

ランドバンク

岩松小との連携

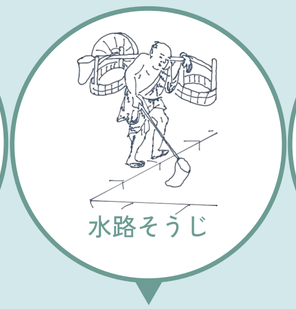
麹産業

シン・てんやわんや

目的 「もの・こと・しかけ」の第一歩

展示 シン・てんやわんやの世界

「もの・こと・しかけ」の仕組みの提案



WS てんやわんや会

「もの・こと・しかけ」の自分たちごと化

- 樽を何に使う？
- 避難所に対する要望はある？
- 自分の土地をどんな風に使ってほしい？
- 自分の家への不満はある？

08 将来の岩松―シン・てんやわんや

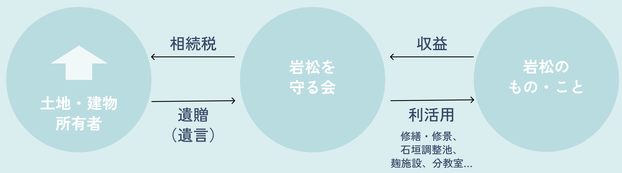
しかけ

土地を受け継ぐ

現状

高齢化＋市外流出
名義人が分かっても、管理者分からず、管理されていない土地が多い
→土地が荒廃し、町並みの衰退が加速されてしまう

しかけ①　ランドバンク

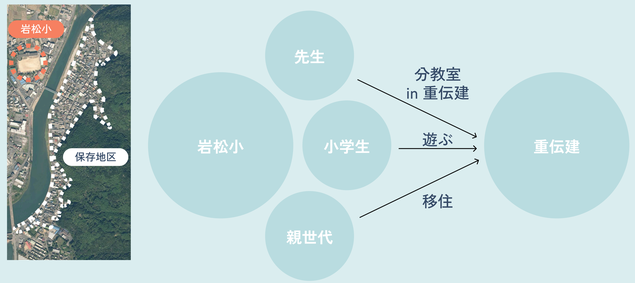


こどもを取り込む

現状

人口減・高齢化
→建物を使う人が少なくなり、町並みの維持が困難に

しかけ②　再来年、津島地区の小学校が岩松小学校へ統合→重伝建との連携

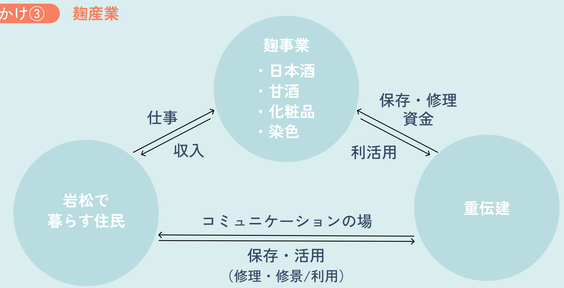


特産を持続可能なスキームに育てる

現状

岩松地区内に仕事があまりない
→若年層の流出、地域外からの誘致が困難、重伝建維持管理が困難

しかけ③　麹産業



ものからことへ

雨庭・石垣調整池

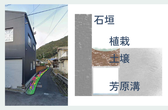
もの

岩松の町並を構成する共有物（環境物件）に注目

芳原溝

石垣

雨庭



石垣調整池

こと

ひと
- 子どもの遊び場
- 修理/修景
- 花植え

修理/修景
- 芳原溝と石垣という環境物件の修理と新たな活用

防災
- 避難所へ続く雨庭
- 豪雨時の貯水機能
- 消防水利としての利用

西村酒造

もの

こと

ひと
- 井戸端会議
- 地域の情報交換の場

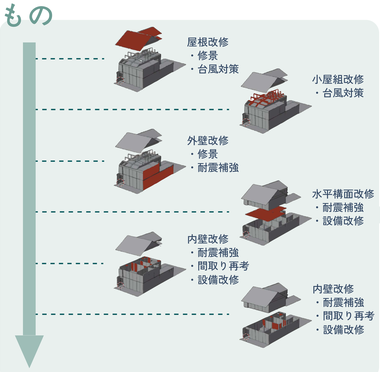
しごと
- 麹製品販売
- 岩松守ろう会の拠点

修理/修景
- 外観の意匠はそのままに、中を銭湯として転換する

防災
- 土居ノ奥への避難拠点
- 断水時の水拠点

個別建物

もの



こと

ひと
- 伝統構法体験
- 修繕/修景WS

しごと
- 地元工務店の方による修繕

修理/修景
- 未使用建築物の利用
- 個別建物の耐震性向上

防災
- 耐震補強
- 台風対策